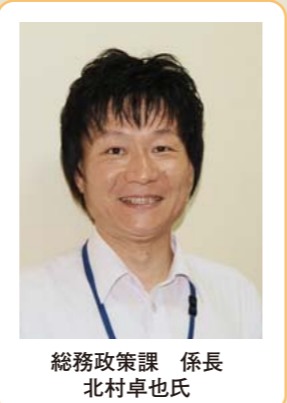


ITコーディネータ活用記

〈和歌山県日高郡美浜町〉

汎用パッケージを用いた基幹系システム刷新でコスト削減へ 調達や運用管理にも新たな方法を採用

「随意契約から指名競争入札へ」「オフコンから汎用パッケージへ」——長年運用してきた基幹系情報システムの更改に際して大きな決断をした和歌山県美浜町。その取り組みの支援役にITコーディネータを起用した。



総務政策課 係長
北村卓也氏

「当時は総合評価方式での入札・調達事例がまだ少なかったため、各課の職員の皆さんにこの調達の目的を理解いただくには時間がかかるだろうと覚悟していました」と米田氏は振り返る。

ベンダー3社からの提案を技術要素やコスト面など総合的な観点で評価し、2010年6月、最もポイントが高かった（見積の最安値ではない）新規ベンダーに発注することが決定。翌月から約9カ月間でシステム構築を行い、2011年4月から運用を開始した。

新しい基幹系情報システムは役場内のほとんどの業務に適用され、従来は課ごとのパソコン端末で処理してきた業務の一部も取り込んだ。また、システムに関するベンダーとのやり取りや作業依頼・契約などを、課単位ではなく役場内で一本化して行う形式に変更。運

深く蒼い海が広がる海岸線に、5km近くも松林が続く。ここを訪れた画家の言葉から煙樹ヶ浜と名づけられた美しい海岸線を持つのが和歌山県の西部に位置する美浜町である。市町村合併をせず、人口約8000人、面積は県内で2番目に小さい町だ。

町長の森下誠史氏は、「明治時代に単身カナダに渡り数百名の移民を世話した工藤儀兵衛に象徴されるように、進取の精神に富んだ地域です」と説明する。

自治体の規模を問わず 必要な情報システム

自治体では規模の大小を問わず、住民サービスの提供を支える情報システムが必要だ。

美浜町では20年以上にわたり、単一のITベンダーとの随意契約のもとでオフコンベースの基幹系情報システムを運用してきた。



町長 森下誠史氏

用上の問題や要望などを議論し情報共有する場として、副町長をトップとする「検討委員会」も設置した。当然のことながら、システム環境の大幅な変化に対して、利用現場では少なからぬ混乱が見られた。

職員からの問い合わせやクレームを一手に受け、説明に追われる北村氏の負荷も一気に高まった。

ITC米田氏はこうした局面のサポートにもあたった。2010年4月から「ITアドバイザー契約」に基づく支援役も請け負い、現在も月次の定例会議に出席したり、システムの追加開発・修正などに関する仕様やコストのチェックなどを行っている。北村氏は、「日々のシステム管理業務のことも相談できる非常に心強い存在です」と評している。

システム運用への関与で 職員の意識が変わった

新システムの導入効果については、追加開発があったことなどから、コスト削減という点は十分な手応えが得られているわけではない。ただ、「従来のようにベンダーに任せきりではなく、職員がシステ

和歌山県美浜町プロフィール

人口：8003人（2012年9月1日現在）
面積：12.79km²
東西約9km、南北約2.5km
特徴：太平洋に面する砂州海岸には、全長約4.5km、幅最大500mの近畿最大の松林「煙樹ヶ浜（えんじゅがはま）」がある。また、海水の浸食作用によってできた岩で、海水が鯨の潮吹きのように上がる「潮吹岩」など見所も多い。釜揚げシラスが特産。



「そのため、コストを他と比較する機会がなく、負担が重いのか輕いのかをなかなか判断できずいました」と、美浜町・総務政策課・

係長の北村卓也氏は説明する。

そこで2010年度のシステム更改を機に、指名競争入札によるオープン系パッケージを用いたシステムへと切り替える決断をした。

この際に、IT調達について客観的なアドバイスの必要と、相談を持ちかけたのがNPO情報セキュリティ研究所（略称RIIS、和歌山県田辺市）だった。

「自治体職員である私たちはIT分野には詳しくなく、システム提案依頼書（RFP）をまとめ、調達（入札）



の手続きを行いベンダーからの提案・見積りを評価するという一連の工程に関して、ノウハウを持つていませんでした」と北村氏。これに對

してRIISでは、「ベンダーに所属しない第三者の視点での確かなアドバイスをできるITコーディネータの活用を勧めました」と情報セキュリティ事業担当の嘉戸達也氏は話す。

支援役には、ITコーディネータ組織であるITCILabo（大阪府大阪市）に所属し、RIISの研究者でもある米田宗義氏が抜擢された。2009年7月から、新システム導入への取り組みが始まった。

調達・導入に加え

運用現場の調整もITCが支援

システム調達フェーズでは、米田氏とRIIS主任研究員の山地真嗣氏が支援に携わった。各課へのヒヤリングによって業務の現状を把握したうえで仕様策定、RFPの作成・公開を行い、総合評価方式による指名競争入札を告知した。

美浜町のITコーディネータ活用

過去の
情報システム

↓

ITコーディネータの
活用

↓

現場の意識改革に効果

- ・オフコンベースの運用
- ・単一のITベンダーとの随意契約
- 特定書類の出力にはベンダーの手を借りないとデータ出力できないことも
- オープンシステムの導入を検討その調達の適正さの見極めに専門家の活用を検討
- 2009年7月～2010年6月
基幹系情報システムの調達支援
→ 仕様検討支援、調達手続支援、RFP作成、提案・見積評価
- 2010年7月～2011年3月
同システムのシステム構築支援
- 2010年4月～現在：
ITアドバイザー契約
同町の情報システム全体に対するアドバイザー

ム運用に多少なりとも携わるようになったことで、現場の意識改革がなされたのは非常に大きな成果だと考えています」（北村氏）という。自らの業務内容を細部まで把握し、システムをうまく運用していくという姿勢が職員に見られるようになってきたのだ。

米田氏は、「北村さんが、システム構築の時点から意識改革を啓発してきたことが功を奏したのだと思います。中期的にはコスト面も含めてより明確な成果が現れるはずですよ」と分析する。

そして北村氏も、「米田さん、RIISのサポートを受けて、シス



NPO情報セキュリティ研究所
主任研究員
山地真嗣氏



ITコーディネーター一般社団法人
ITC-Labo
http://itc-labo.com/
NPO法人情報セキュリティ研究所
米田宗義氏



NPO情報セキュリティ研究所
情報セキュリティ事業担当
嘉戸達也氏

テムのさらなる有効活用を推進していきたい。次のシステム更改時には職員の新たな意識も大きくプラスに働くでしょうから、今から楽しみにしています」と語る。

美浜町のような小規模な自治体でITCがその使命を果たしていることは、多くの市町村における活躍の可能性を示唆している。